

解体・改修工事における
石綿(アスベスト)飛散防止対策が強化されました

大気汚染防止法の一部を改正する法律の施行に伴い、建築物等の解体・改造・補修工事における石綿飛散防止対策が、令和3年4月から段階的に強化されています。

- 令和3年4月1日～ 全ての石綿含有建材が規制の対象
- 令和4年4月1日～ 元請業者又は自主施工者（以下「元請業者等」という。）による事前調査結果の報告の義務化（報告は福岡市長へ）
- 令和5年10月1日～ 建築物に係る解体等工事について調査者等による事前調査の義務化
- 令和8年1月1日～ 工作物に係る解体等工事について調査者等による事前調査の義務化

石綿(アスベスト)とは

石綿ともよばれるアスベストは、繊維状の天然鉱物で、耐熱性や耐摩耗性などの優れた性質をもつため、建材等に広く使用されてきました。肺がんや中皮腫の原因となることから、現在は輸入・製造・使用が禁止されています。

クリソタイル(白石綿)

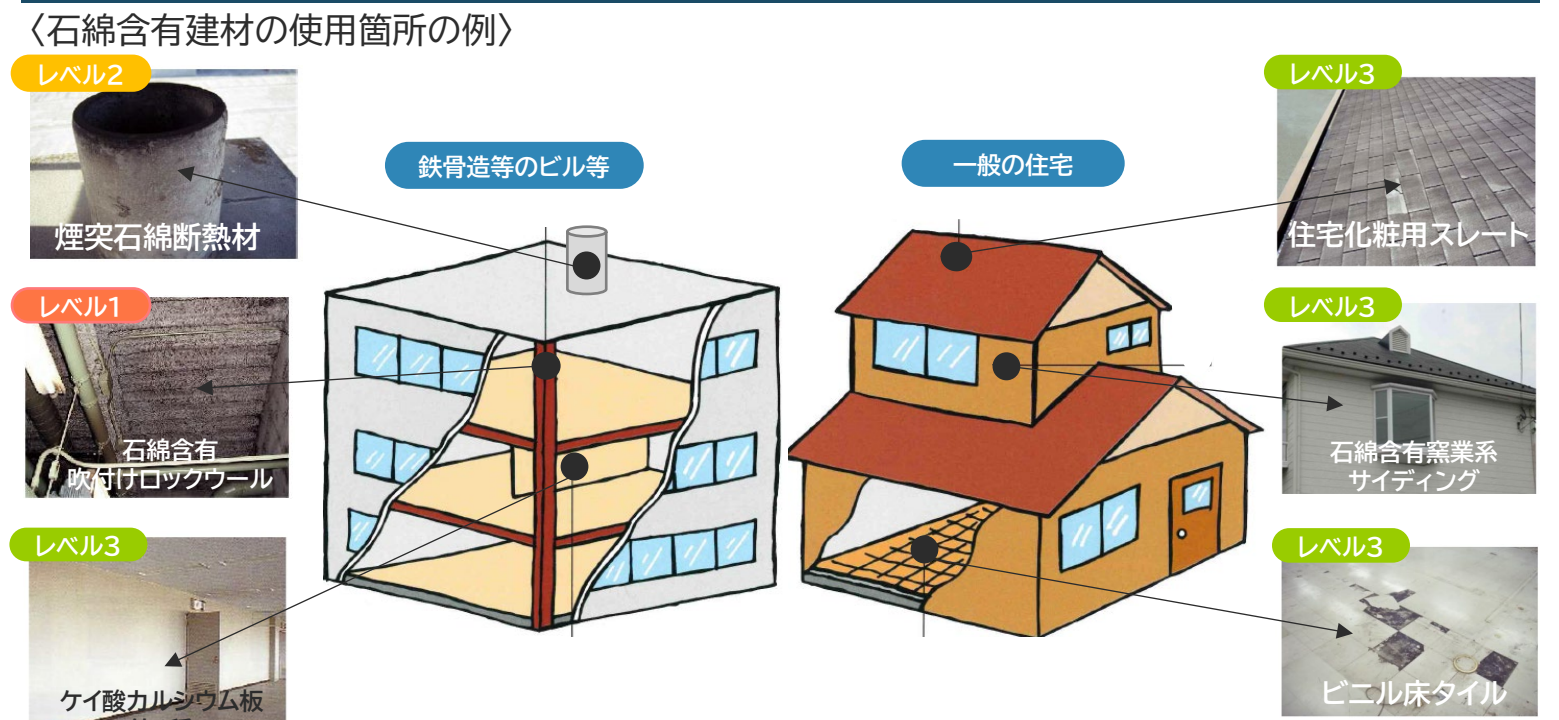
アモサイト(茶石綿)

クロシドライト(青石綿)

この他にも、トレモライトや、アクチノライト、アンソフィライトがあり、計6種類あります。

出典：THE ASBESTOS／せきめん読本（1996年日本石綿協会）

石綿含有建材の使用箇所及び種類

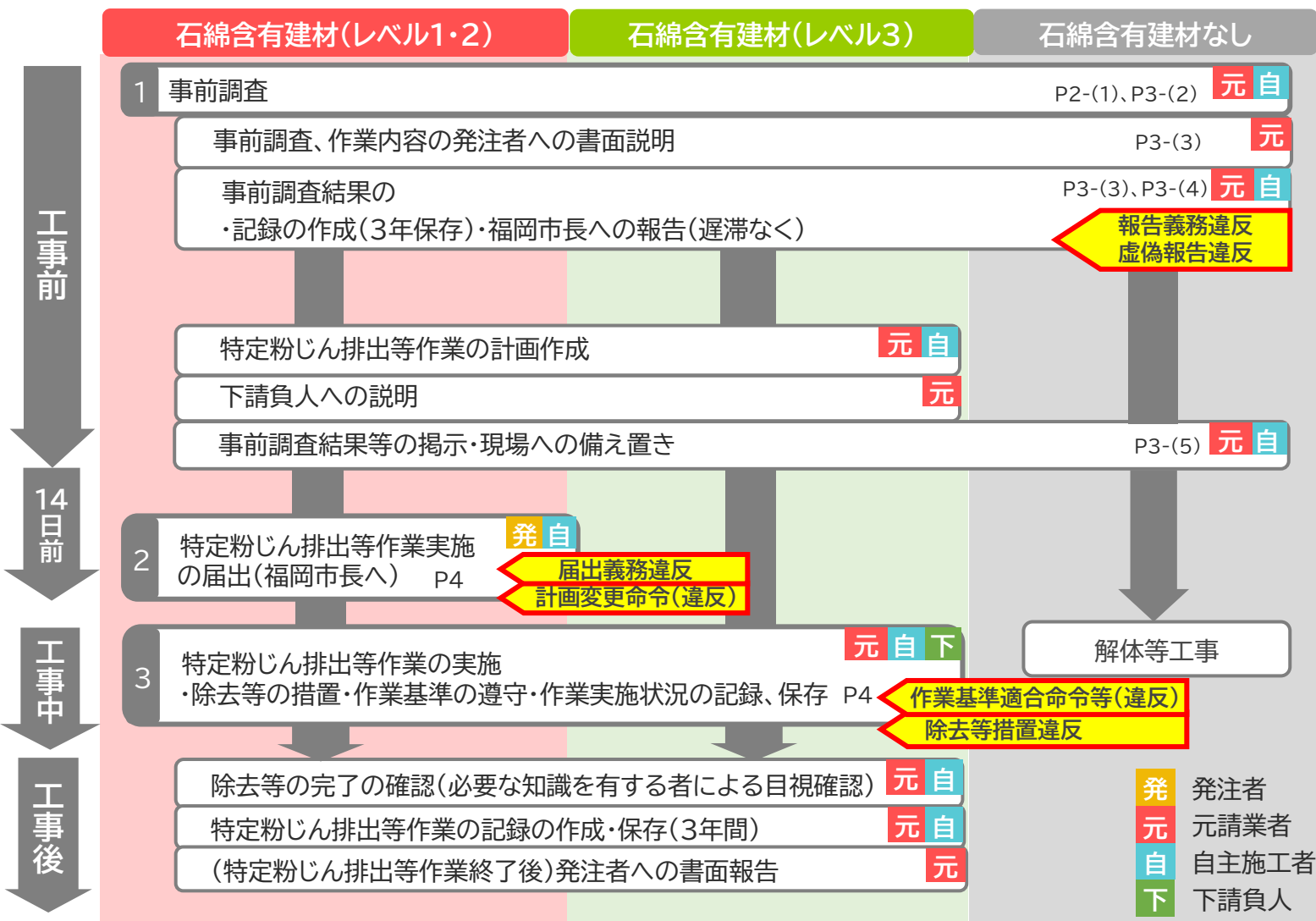


出典：目で見えるアスベスト建材（第2版 平成20年3月国土交通省）

〈石綿含有建材の種類〉

石綿含有建材の種類	吹付け石綿	石綿含有断熱材・保温材・耐火被覆材	その他の石綿含有建材（成形板、仕上塗材等）
レベル分類	レベル1	レベル2	レベル3
発じん性	著しく高い	高い	比較的低い

解体・改造・補修工事の手続きの流れ



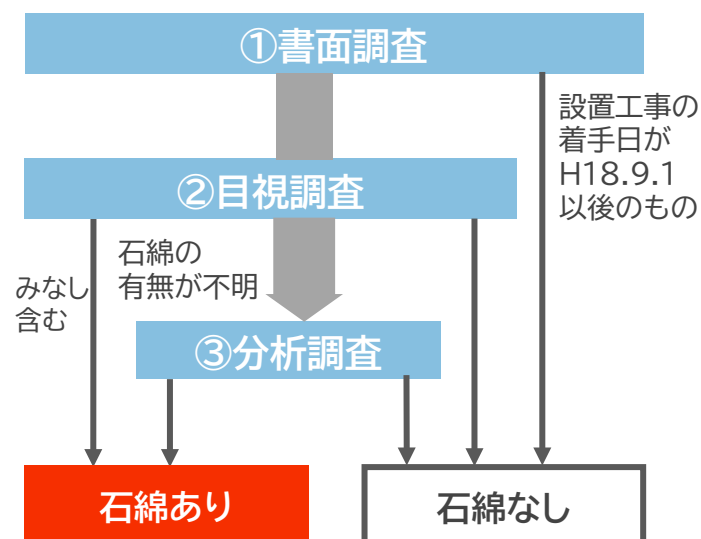
1 事前調査

元請業者 自主施工者

元請業者等は、建築物・工作物の解体、改造、補修工事を行う前に、石綿含有建材の使用の有無について、調査する必要があります。

(法第18条の15第1項、第4項)

(1) 事前調査の方法



① 書面調査

設計図書等により、解体等工事に係る建築物等の設置の工事に着手した日、建築材料を確認し、石綿の使用の有無を、石綿(アスベスト)含有建材データベース等により確認します。

ポイント! 書面調査のみで「石綿使用なし」と判断してはいけません。※1

② 目視調査

現地で各部屋・部位を網羅的に確認します(書面調査との相違を確認)。

③ 分析調査 ※2

書面調査・目視調査で石綿含有の有無が不明な場合、同一材料毎に代表試料を採取・分析し、石綿含有の有無を判定します。

※1 ただし、平成18年9月1日以降に設置の工事に着手したことが明らかな建築物や石綿の使用禁止後に設置の工事に着手した工作物については、設計図書等の書面で着工日を調査するだけで構いません。

※2 分析調査は、厚生労働大臣が定める者等(令和2年厚生労働省令第277号参照)に依頼してください。

法第18条の15第1項、第4項、
規則第16条の5



法第18条の15第1項、第3項、第4項、
規則第16条の7、第16条の8



29.7cm以上

レベル1、2の建材の除去、封じ込め又は囲い込みを行う場合、**発注者**（又は自主施工者）は、作業開始の14日前までに、福岡市長への届出が必要です。（法第18条の17、規則第10条の4）

3 作業基準

元請業者

自主施工者

下請負人

解体等工事の元請業者（又は自主施工者）や下請負人は、石綿の除去等作業の方法について、建材の種類及び作業の種類ごとに、作業基準を遵守する必要があります。（法第18条の14・20、規則第16条の4・13～15）

建材の種類	除去の方法		主な飛散防止措置	
			※1 湿潤化等	隔離養生
吹付け石綿 (レベル1) 石綿含有断熱材・保温材・耐火被覆材 (レベル2)	切断等により除去を行う場合	吹付け石綿、石綿含有断熱材・保温材・耐火被覆材の除去を行う場所を他の場所から隔離し、除去を行う間、集じん・排気装置を使用する方法	○	負圧隔離養生
		上記と同等以上の効果を有する方法（例：グローブバッグ工法）		グローブバッグ
	切断等せずに除去を行う場合	石綿含有断熱材・保温材・耐火被覆材をかき落とし、切断、又は破砕以外の方法で建築物等から取り外す方法	○	※2 隔離養生（負圧不要）
		屋根用折板裏断熱材を折板につけたまま除去する方法		
		配管保温材を非石綿部での切断により除去する方法	—	—
	囲い込み・封じ込めを行う場合	吹付け石綿の封じ込めを行う方法	—	負圧隔離養生
		吹付け石綿の囲い込み、石綿含有断熱材・保温材・耐火被覆材の囲い込み・封じ込めを行う方法（切断等を伴うもの）	○	
		吹付け石綿の囲い込み、石綿含有断熱材・保温材・耐火被覆材の囲い込み・封じ込めを行う方法（切断等を伴わないもの）	—	※2 隔離養生（負圧不要）
石綿含有成形板等 (レベル3)	石綿含有ケイ酸カルシウム板第1種の除去を行う場合	原形のまま取り外す方法	—※3	—
		上記方法での除去等が著しく困難なとき（切断等）	○	隔離養生（負圧不要）
	石綿含有成形板等の除去を行う場合	原形のまま取り外す方法	—※3	—
		上記方法での除去等が著しく困難なとき（切断等）	○	—
仕上塗材	石綿含有仕上塗材の除去を行う場合	電動工具（ディスクグラインダー又はディスクサンダー）を使わない方法	○	—※4
		電動工具（ディスクグラインダー又はディスクサンダー）を使う方法	○	※5 隔離養生（負圧不要）

※1 石綿等の湿潤化、除じん性能を有する電動工具の使用その他の石綿等の粉じんの発散を防止する措置のいずれかを行うこと

※2 劣化による飛散が想定される場合は、負圧隔離養生等を行うこと。

※3 粉じん飛散防止のため、実施することが望ましい

※4 工法により、飛沫防止等の養生が必要

※5 湿潤化及び隔離養生（負圧不要）と同等以上の措置を講じる場合は不要

届出や掲示板などの様式のダウンロードはこちら！

福岡市環境保全課HP
「公害防止法令の概要と届出様式」

福岡市 公害防止法令

検索



問い合わせ先

福岡市環境局環境保全課

TEL：092-733-5386